

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：天才キッズクラブ楽学館あざみ野園	種別：認可保育所
代表者氏名：田中 孝太郎	定員（利用人数）：54名（利用人数50名）
所在地：神奈川県横浜市青葉区美しが丘5-33-4	
TEL：045-532-8641	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年（平成29年）4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社TKC	
職員数	常勤職員：7名 非常勤職員：15名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：13名 看護師：1名
施設・設備 の概要	（居室数）：保育室4（うち1部屋は間仕切り使用）
	（設備等）

③理念・基本方針

<法人理念>

子ども一人一人を大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指し、子どもの最善の利益を考え創意工夫を図る

<保育理念>

「ダメな子なんていない すべての子が天才である」という信念に基づき、色々なことにチャレンジし、成功体験と失敗体験をたくさんすることで、「生きる力」を持った子どもたちを育てる

<基本方針>

乳幼児それぞれの時期に、一人一人の子どもの天から授かった潜在能力を引き出し、IQ(学力) EQ(心力) GQ(元気力)のバランスの良い子どもを育てる。

- ・教えない
- ・競争する
- ・子ども扱いしない
- ・習慣・体づくり

④施設・事業所の特徴的な取組

保育者は、園児が自ら楽しんで身体を動かしたり学習ができるように努めています。そのため、まず保育者自らが保育を楽しみ、園児に、リトミック・体操・ミュージカル・英語のプログラムを提供しています。

運動では、卒園するときには、逆立ち歩きができる、側転ができることを目指しています。

健康な体を作り、目標に向かって努力を続ける中で、成長する喜びをみなで分かち合い、園児の自己肯定感を養います。

また、挨拶をすること、がんばっている友だちを応援することなども大切にしています。

毎日の朝の会や夕の会では、クラスの中から1人か2人をピックアップし、その子のよいところを皆で祝福をします。

保育者は、安心・安全な環境作りを最優先として、園児それぞれの特性に着目し、よいところを伸ばすように工夫を凝らした保育に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年7月8日（契約日）～ 令和2年2月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子どもの自主性と個性を尊重した保育を実践しています

法人の基本方針である「一人一人の子どもの天から授かった潜在能力を引き出し学力・心力・元気力のバランスよい子どもを育てる」ことを基本に、「教えない」「子ども扱いしない」「競争する」「習慣・体づくり」を実践し、「生きる力」をもった子どもを育てることを目指しています。

保育室は子どもたちが好きな遊びを選べる環境を設定し、帰りの会で何をしたいのかを聞き保育活動に取り入れています。行動や方法は言葉で伝えるだけでなく、絵本を利用したり他の子どもや保育士の行動を見て「自分もそうしたい」という意欲や自主性を育てる工夫をしています。

おもちゃやスリッパ等物品の置き場所は言葉で指示するのではなく、テープで枠を作ったり、絵や文字を使用し視覚で理解できるようにしています。毎日クラスごとに「スーパーハッピーな人」をみんなで決めて拍手で祝福し、認められる喜びを得られるように工夫しています。

園が提供する基本的なプログラムはありますが、子どもがしたくないことは無理強いせず興味のあることに取り組める環境作りを行い、子どもの自主性と個性を尊重した保育を実践しています。

2)職員の協力体制が確立しています

朝の挨拶は、職員同士や、登園した子どもと職員で「おはよう」と言ってハイタッチをしています。保護者と職員でハイタッチしている姿も見受けられ、保育園の一日の始まりはとても明るい雰囲気になっています。職員はコミュニケーションを大切に考え、会議などで「ピグマリオンミーティング」を行って意識的に互いの良い点を認め合い、明るく働きやすい職場環境づくりを行っています。

「グッドエラードンマイ」を合言葉にして協力して保育活動を行い、情報や知識の共有を積極的に行っています。保護者との信頼関係も大切にしています。職員は子どもたちの園生活を支えるために、明るい職場環境と協力体制づくりを行っています。

◇改善を求められる点

1)保育所としての自己評価の実施

「振り返りシート」による自己評価を毎月行っていますが、個々の保育士が行った自己評価を踏まえた職員相互の話合い等はありません。保育の質の向上に向けた組織的な取組として、保育所としての自己評価を実施し、評価結果を分析・検討する体制づくりが期待されます。

2)園からの情報提供による保護者との信頼確保

職員の入れ替わりが多くあり、不安を感じている保護者もいます。保護者とのコミュニケーション不足、職員体制に対する不安、情報提供の遅れなども指摘されています。保護者との更なる信頼関係の構築のために、園からの情報提供の検討と工夫が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して3年目を迎え、初めて第三者評価を受審させて頂きました。

自己評価を行い、職員全員の意見をもとに話し合いや意見交換ができ、日々の保育や環境のねらいと意図、今後の見通しを持たせた事が今後の園の運営に繋がっていているのではと感じました。

定期的な振り返りや日々の伝え合いの重要性が課題の一つであるため、園の全ての評価、個人の自己評価をもとに、話し合いの持ち方を工夫していきたいと思えます。

又、職員の入れ替わりによる、不安、不安定な運営に対して、法人内で園長経験者を園長と配置し、保育士からの信頼と実務のできる者を主任として、チーム作りをしています。保護者、スタッフとの信頼、回復についても重要視して努めていきます。

ご協力頂いた株式会社フィールズ様、ご多忙の中アンケートにお答え頂いた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり